★AALA ニューズ 224 号　2026 年 11 月 4 日（水曜日）

中国はキューバを支援している

グローバルサウスの立場からの政治解説を主に提供しているサイトに投稿されている解説動画の文字お越し要約です。（見出しは編集部）

Youtube / Ancient Craft
２０２６年１０月３１日投稿

China Is Feeding, Powering and Defending Cuba While Washington Hunts Its Fuel Ships - YouTube

中国はキューバに食糧を供給し、エネルギーを供給し、防衛を支援している。これに対し、ワシントンは中国の燃料輸送船を追跡している

10 月 28 日、国連総会は、米国によるキューバへの経済封鎖を非難する決議を可決した。この決議には（日本もふくめ）130 カ国が賛成した。

ワシントンは数週間にわたり、各国大統領への電話連絡や非公開会合の開催、各国の首都でのロビー活動に奔走したが、それでも決議の可決を阻止することはできなかった。

しかし、ここで多くの人が見逃していることがある。ワシントンがニューヨークでロビー活動を行っている間、中国は騒ぎ立てることなく、はるかに効果的な動きを見せていた。それが①発電所の建設、②食料の輸送、そして米国の制裁を迂回する③金融ルートの開拓だ。

これから数分間にわたり、この活動を紹介します。

今年、中国のキューバを支援する活動はあらゆる分野に及びます。太陽光発電所、食料米と農業資金、決済システム、国連での外交的盾となる活動、そして 9 月に署名されたばかりの 2 カ年支援計画などです。

そして、キューバを孤立させるために築かれた封鎖が、なぜ今も壁となってぶつかり続けているのかを、改めて示します。

国連決議の意味：「制裁政治」の本質

さっそく本題に入りましょう。まずは投票の結果そのものです。数字が重要だからです。賛成 130 票、反対 17 票、棄権 25 票。この決議は毎年可決され、今回 34 回目となる可決を果たしました。

キューバのブルーノ・ロドリゲス外相は、こう語りました。「キューバ国民への締め付けを続けようとするワシントンの試みは再び孤立した。ワシントンは数カ国の政府を靡かすために、どれほどのロビー活動が必要だったことか」

メキシコとインドは決議に賛成の演説を行い、自決権尊重の立場を貫いた。インドは、燃料輸出制限がキューバのエネルギー、医療、食糧システムに深刻な影響を及ぼしていると指摘した。

ルビオ米国務長官の自白

ルビオ氏自身がキューバ制裁の目的を明かしてしまった。10 月 16 日、CBS が報道した。「ルビオはこのキャンペーンについて説明した。それはキューバ政府に『もはや逃げ道がない』と絶望させるよう仕組まれたものだ」と説明した。この言葉を覚えておいてほしい。なぜなら、これこそがその後のすべてを説明するからだ。

数週間にわたる電話や会合の末、米国側は 193 カ国中わずか 17 カ国のみの反対、という孤立状態に陥った。そして、この投票の結果、キューバが 80 億ドル以上の損失を被ったと主張する封鎖が維持されることになった。

経済封鎖はキューバに何をもたらしているか？

2026 年、キューバへの経済封鎖がどのような結果をもたらしているかを見てみよう。

1 月 3 日、ベネズエラ強襲作戦の後、ワシントンはただちに、ベネズエラ産石油のキューバへの供給を遮断する措置を講じた。

1 月 11 日、トランプ大統領は「石油も資金も一切提供しない」と改めて宣言した。

1 月 29 日、トランプは大統領令を発し、キューバに石油を供給するいかなる国に対しても追加関税を課すと脅した。

5 月 1 日、新たな制裁措置が発表され、5 月 19 日には、キューバ政府のエネルギー相を含む 11 人の高官に対する個人制裁が発動された。

9 月 30 日には、キューバに関係する企業の口座を凍結し、外国の銀行を威嚇する新たな規制が導入された。

10 月はじめには、約 300 万ドル相当のバイオディーゼル 90 便が差し押さえられ、10 月 15 日にはキューバと関連のある銀行が制裁対象となった。

その結果、島内では今年に入って全国規模の停電が 8 回発生した。ハバナでは最大 20 時間に及ぶ停電が発生し、270 万人が水不足に直面し、パンの価格は 10 倍に高騰した。これこそが、封鎖が意図するところである。

中国のエネルギー支援

さて、中国は次のようなキューバ支援を行っている。

第 1 の分野は電力だ。これが最大の柱である。中国は 2023 年以降、22 カ所の太陽光発電所を設立し、1 億 1400 万ドル以上を拠出した。現在、49 カ所の

太陽光発電所が建設されており、2028 年までに 92 カ所の建設が計画されている。

キューバの電力に占める再生可能エネルギーの割合は、約 4%から 20%以上に上昇した。キューバへの中国の太陽光発電関連輸出額は、2023 年の 300 万ドルから 2025 年には 1,700 万ドルへと急増した。マリエール太陽光発電所だけでも、国内電力の約 10%を供給しており、そのペースは衰えていない。

2025 年には 35 メガワットが追加され、10 月までに 15 カ所で計 85 メガワットが導入される見込みだ。

9 月 23 日、中国の華信大使は、太陽光発電設備を積んだコンテナ 200 個が到着したことを発表した。これは、全 169 の自治体における住宅や公共施設を対象とした 5,000 システムの導入計画の一環であり、農村部の家庭や重要施設を優先的に対象としている。

そして 10 月の第 1 週、新たな 200 メガワットの太陽光発電・蓄電プロジェクト向けの資材が到着した。

太陽光発電はどこまで需要に応えられるか

その他のエネルギー供給の可能性を加えて考えてみよう。

まず石油だが、キューバの送電網は今年に入って 8 回も停電しており、今年度に入ってロシアのタンカーが 1 隻しか同島に到達していない。

燃料が不足している状況では、太陽から得られる 1 メガワットは、安全な 1 ワットである。すなわち米国の沿岸警備隊の妨害を突破して入港する船舶に依存しない 1 メガワットとなる。

だからこそ、この太陽光発電プログラムは単なる形だけの取り組みではない。

なぜこれが重要なのか？ それは戦略だからである。石油は追跡され、タンカーは阻止される可能性があるが、診療所の屋根にボルトで固定されたソーラーパネルは、海上で押収されることはないからだ。

中国製のパネル一つひとつが、ワシントンが島に対して持つ支配力を恒久的に削ぐことになる。計画は万難を排し、予定通りに進められている。

食糧とくにコメの支援

中国の支援の第二の分野は食糧だ。

1 月、習近平はキューバへの 8,000 万ドルの食糧援助と 6 万トンの米の提供を承認した。5 月 23 日、「サニー・ホン」号に乗船した最初の 1 万 5000 トンが到着した。米はキューバの食卓の中心であり、ワシントンが燃料の輸送を追い求めている一方で、中国からの船は夕食となる食糧を荷下ろししている。

第 3 の分野、農業

5 月 26 日、中国とキューバの当局者は、ジャン・ジャリ氏とキューバのテルシー・ゴンザレス氏を交えて農業協議を行った。その目標は
単純明快だ。

キューバが自国でより多くの食料を生産できるよう支援し、いかなる封鎖も、飢餓に苦しむことなく耐えていくことだ。

第 4 の分野、米国の金融制裁への対抗手段：CIP

金融面では、ワシントンがいまや最後の扉を閉ざそうとしている。9 月 30 日に発効した規制は、キューバのビジネスに関わる外国銀行を金融制裁により脅かしている。

米国の金融制裁に対して、中国はすでに別の道を切り開いている。中国のクロスボーダー決済システム「CIP」は、6 月時点で。世界中に広がる 10 の直接参加機関と 1619 の間接参加機関を擁している。

ドル決済ネットワークを懸念する銀行にとって、これは単なる構想ではない。それは今日すでに存在し機能している代替手段である。

第 5 の分野は、開発計画だ。

9 月 23 日、中国とキューバは「2026 年度 友好協力・交流計画」に署名した。これは、封鎖が最も厳しくなる時期を跨ぐ協力のための、日付入りのロードマップである。
署名された計画は、たんなる声明にとどまらない意味を持つ。それは実行スケジュールそのものである。

第 6 領域、中国はキューバの外交的盾となる

2 月、王毅外相は、中国が能力の範囲内でキューバを支援すると宣言した。
7 月 17 日、林建報道官は、北京が封鎖に反対する立場を改めて表明した。同じく 7 月、国連の中国代表は、（米国の）軍事的冒険主義が地域の安定を損なう恐れがあると警告し、いかなる一国も「国際警察」としての役割を果たすべきではないとの考えを表明した。

「77 カ国グループ」と中国は、ワシントンに対し、キューバを根拠なしに「テロ支援国家」に指定することをやめ、リストから除外するよう求めた。
9 月 26 日、韓正（ハン・ジョン）国家副主席は、国連総会の演壇に立ち、キューバ封鎖の解除を要求した。

また、9 月 28 日には、郭 嘉昆（かく かこん）外務省報道官が、「中国はキューバを断固として支持する」と述べた。国連においても、票の数は北京側に有利に働いている。

この決議には法的拘束力はなく、禁輸措置を解除できるのは米国議会のみだが、国連総会は数十年にわたり毎年、この措置を非難してきた。
その声の中で中国の主張は最も大きなものの一つであり、その立場は 2 月、7 月、9 月と一貫している。

封鎖を終止せよ。このパターンに注目してほしい。ワシントンは脅しで語る。中国は公の場で発言し、その後、物資の供給でそれに応える。

第 7 の分野は、制裁という仕組みそのものとの対決である

第 7 の分野：　レジリエンスのためのパートナーシップ

米国は、ロシアおよび中国からの武器購入をめぐり、5 社と 8 人の当局者を制裁対象とした。中国側の反応は明確だった。キューバとの協力は正当なものである。謝罪も、後退もない。そして、それが今年の教訓である。

中国は数ヶ月にわたり米国の関税を吸収し続けてきたが、9 月の輸出は依然として 36.3%も急増し、年初から 9 ヶ月間の貿易黒字は 9,380 億ドルに達した。これほどの産業的重量を持つ国が、友を助けるために許可を求めることはない。

中国は物資を送り届ける。さて、この 2 つの実績を並べてみよう。

ワシントン：石油供給削減、不当な関税の脅し、銀行への圧力、資産差し押さえ、誰かを陥れるブラックリスト、舞台裏でのロビー活動。

中国：太陽光発電所、コンテナ、米、援助、決済システム、出処を明らかにした行動計画、

一方は奪い続ける。そしてもう一方は立ち向かい続ける。そして、投票結果を見直してみよう。

これこそが、これまで 60 年にわたる両者の政策、それに対する世界の評決である。中国こそがキューバの「生き延びる道」だ。エネルギー、食糧、資本、外交、そして計画。これら 7 つの分野ごとに「生きる道」が示されている。だからキューバは決して孤立しない。